

光駅周辺地区拠点整備基本構想の策定に向けた「市民アンケート調査」結果の概要

【光駅周辺地区への来訪状況】

- 本市の都市構造として、西部地域・南部地域に商業・業務・教育の施設が立地していることから、日常生活において、「光駅周辺地区」に行く人が多くなっています。
- 特に、「10歳代（高校生）」や「20歳代」、「電車・バスの利用者」は、光駅又は光駅周辺地区を拠点とした生活となっていることがうかがえます。
- 「10歳代（高校生）」は、基本的に「通学」で来訪しています。また、「会社員・公務員等」の「通勤」目的は一部であり、「買い物・飲食」目的が最も多くなっています。
- 来訪の主目的が「通院」となる「70歳代以上」は、「平日」利用が多くなっています。一方、「買い物・飲食」が主目的となる「会社員・公務員等」は「休日」の方が多くなっています。

【光駅周辺地区を利用しない理由と問題点】

- 本地区を利用しない理由として「特に理由はない」が最も多くなっており、日常生活において、本地区のことがあまり意識されていないことがうかがえます。
- 「必要な機能がない」ことも利用しない理由として多く挙げられており、問題点や自由意見から、特に「商業施設」や「飲食店」など商業機能の不足を実感している人が多いことがうかがえます。
- 問題点としては、「にぎわい不足」が突出して多く、次いで「虹ヶ浜の魅力を活かしきれていない」、「マイカー、バス、タクシーの混在」が多くなっています。

【今後必要と思われる機能】

- 「商業機能」、「医療機能」、「公共交通機能」が特に求められていることがうかがえます。
⇒医療機能については、光総合病院の移転新築により、今後需要が変化していくことも考えられます。
- 「現状のままで良い」との回答も多くなっており、過度な都市化ではなく、虹ヶ浜など、「自然」を活かした整備が求められていることがうかがえます。
- また、「地域交流行事」や「観光交流イベント」、「イベント企画制度」など、ソフト事業に関する意見が少なく、現状では基本的にハード事業に優先して取り組むことが求められていることがうかがえます。

【将来どのような地区になることを望むか】

- 「生活利便性」、「交通利便性」、「回遊性」など、利便性の向上が求められていることがうかがえます。
- 自由意見では、「自然景観」を活かした（またはそのまま残す）整備が求められていることがうかがえます。
- 若年世代ほど「生活利便性の高い地区」、高齢世代ほど「癒しと安らぎにあふれる地区」を望む人の割合が高い傾向にあります。また、若年世代ほど、賑やかな都市空間を求める傾向が見てとれます。